

千葉県産 ‘マツタケ’ ついにデビュー？

吹春 公子

2010年11月5日、ついにバカマツタケが「千葉県産松茸」として、駅前大型百貨店の野菜売り場にならんだ。都市部の百貨店で売られているのを見るのはこれがはじめてである。

今年は例年にない猛暑で夏に雨がほとんどなく、ようやくきた9月初旬の台風の直後から気温は下がって雨も降り、この秋、出るのを待ちわびていた夏のきのこ秋のきのこがいっせいに顔を出した。そんなこともあって、千葉県内外で毒きのこ事件も多発した。一方、マツタケはシロが発達する梅雨期に雨が多かったもので、夏に雨が少なくても十分発生するといわれていた。実際には約2週間ほど時期がずれ込み、発生する地方と発生しなかった地方があったようだ。

しかしそんなことをよそにマツタケは秋の味覚として世界各地から集められ、国産、中国産、カナダ産、アメリカ産など産地と価格で微妙に位置が決められ、とくに国産は恭しく陳列されていた。当日この店舗では、頂点には京都（丹波）産が輝き、徳島産、石川産、位置をずらして広島産、一段下がった場所に千葉県産の‘マツタケ’がひとつ置かれていた（写真1）。千葉県産の文字が飛び込んできた瞬間、すぐにバカマツタケとわかってがっかり。とはいえ、ここで出会えたことに感謝したい。

千葉県では知人ぞ知るバカマツタケ。本物と比べると一目瞭然、値段も一桁違って超格安（写真2）。おそらく1日探しても1本も見つからない者にとって、なんと魅力的なことか。こうなると知っている人のみが徳をするのか、はたまた騙された人が徳をするのか。いずれにしてもバカマツタケ万歳～！なのである。来年もでてくるかな、なんてわくわくするのである。

しかし・・・とうとうバカマツタケもマツタケにされてしまった、のである。とはいえ、バカマツタケという名前で店頭にならぶのは、いくらの確に発生を語った青森の方言とわかってはいても、なんとなくかわいそうな気がする。一部では、ボウシュウマツタケ（房州松茸）、ボウソウマツタケ（房総松茸）などと呼ばれることもあるそうであるが、はてさて、来る秋にはどんな名称で登場するのであろうか。いまから楽しみである。



写真1 陳列の末段に置かれた「千葉県産松茸」



写真2 「千葉県産松茸」の正体はバカマツタケ